

## 令和5年度つくば市予算編成方針

内閣府が公表した令和4年9月の月例経済報告では、「先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」との判断を示した。また、「経済財政運営と改革の基本方針2022」においては、令和5年度予算編成に向けた考え方について、「景気の下振れリスクにしっかり対応し、民需中心の景気回復を着実に実現することで、成長と分配の好循環に向けた動きを確かなものとしていく」としている。

当市において、歳入面では、人口増加に伴う個人市民税や固定資産税の増加により、税収は本年度を上回ると見込んでいるが、つくばエクスプレス沿線開発が徐々に完了しつつあり、今後は税収の伸びが鈍化することが予想されるため、楽観視はできない状況である。

歳出面では、これまで取り組んできた安心の子育てのための環境整備や、児童生徒の急増による小・中学校、児童クラブ等の整備、高齢者への地域包括支援等の福祉の充実などに加え、公共施設の老朽化への対応や、科学技術都市の強みを生かした市民のための社会課題の解決などにも、中長期的な視野に立ち取り組むものとする。また、新型コロナウイルス感染症対策や、原油価格・物価高騰対策についても、国の動向を踏まえつつ、必要な施策を時期を逸することなく実施し、市民生活と地域経済を支えていく。

さらに、持続可能な脱炭素社会の実現に向け、環境と調和し、環境に配慮した取組を加速させ、つくばの恵み豊かな自然を未来の世代へ引き継いでいかなければならない。

つくばに集うすべての人が自分らしく生き、喜びと誇りを持って暮らせるまちを目指し、市民とともに、「誰一人取り残さない」つくばへの歩みを進めていく。

以上を踏まえ、次に掲げる項目を基本的な方針として予算を編成する。

### 【予算編成の基本的な考え方】

令和5年度の予算編成は、枠配分方式を導入する。目的は、市民ニーズを最も身近に把握している事業部門が主体となって予算編成を行うことで、限られた財源を優先すべき事業に確実に配分することにある。編成に当たっては、全職員が、各々が培った経験や知識を最大限に活かし、大胆かつ抜本的な見直しを行うものとする。

さらに、つくば市未来構想に掲げる2030年の未来像の実現に向け、つくば市戦略プランにおける施策を推進し、「市長公約事業のロードマップ」における6つの柱に重点的かつ優先的に取り組むものとする。